

あ と が き

平成10年9月に開始いたしました本県の地域結集型共同研究事業も数多くの研究成果を挙げ、5年間の委託研究期間を終えることになりました。

本県の地域結集型共同研究事業「生体機能再建・生活支援技術 - 機能的電気刺激システムを中核とする最先端リハ・福祉システムの構築と新産業の創出 - 」は、いわゆる「医学」と「工学」の連携であり、フェーズ Ⅰ では医学系及び工学系のプロジェクトリーダーの下で各班の研究班長が担当テーマの進行管理・調整を行なう体制で事業を推進してまいりました。フェーズ Ⅱ では研究テーマの集中と成果の実用化をさらに具体化するために研究班を統合して、医学系及び工学系の研究推進顧問の下で研究リーダーが担当テーマの進行管理・調整を行なう体制で事業を推進してまいりました。また、「医学」と「工学」のさらなる連携を図るため、平成14年3月から「新移動機器開発プロジェクト会議」を定期的開催し、研究のより効果的・効率的な推進を図ってまいりました。

コア研究室につきましては、当初は財団法人みやぎ産業振興機構内に設置しておりましたが臨床に直結した研究を進めるため、医学系のコア研究室を医療法人社団陵泉会北陵クリニック内に、工学系のコア研究室を宮城県産業技術総合センター内に設置し事業を推進してまいりました。しかし、医学系のコア研究室であった医療法人社団陵泉会北陵クリニックが平成13年3月に閉院したことに伴い、医学系のコア研究室については、東北大学のご協力を得て東北大学大学院医学系研究科、東北大学医学部附属病院及び宮城県産業技術総合センター内の工学系コア研究室にその機能を代替することでほぼ当初計画の研究成果を挙げることができました。

また、当事業に参加いただきました共同研究機関、企業、研究員等を通じまして大きな産学官のネットワークを構築することもできました。この大きな産学官ネットワークにつきましては、今後の事業の展開や各種施策を展開する上で、大きな財産となるものと信じております。

本事業のそれぞれの技術的な成果につきましては、本報告書に述べてありますのでここではあえて述べませんが、数多くの成果を挙げる事が出来ましたのも、また、産学官のネットワークを構築できましたのも、この事業の趣旨をご理解いただき事業に参加いただきました各共同研究機関、各企業、各研究員等の皆様方が5年間にわたり事業に積極的に取り組んでいただいた賜物であり、関係各位に心から厚く感謝申し上げます。

最後になりますが、地域結集型共同研究事業は、今後、本事業の研究成果を地域へ有効に引き継がなければならない責務を負っておりますことから、本事業で得られました研究成果につきましては、地域に還元して地域経済の活性化や生活の質の向上を図っていくとともに、今回構築されました産学官のネットワークにつきましては大いに活用し、新技術・新産業の創出を図っていきたくておりますので、関係各位におかれましては引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願いいたします。